

巻頭言



取締役社長

浜崎 祐司 Yuji Hamasaki

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、日頃より「明電時報」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。

我が国の経済は、昨年中、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減による影響が残るものの、企業収益や設備投資意欲は高水準を維持しており、緩やかな景気回復基調で推移しました。一方で、東欧や中東の情勢の緊迫化、新興国の経済成長の鈍化懸念などで、世界経済の先行きは依然として不透明です。

このような中、当社グループでは、中期経営計画「POWER5」フェーズⅢ最終年度の目標達成に向け、中長期的に成長が期待できる「電力・エネルギーシステム」、「自動車、鉄道などの輸送システム」、「水処理システム」などの各分野向けに変電・配電製品、発電製品、電力変換製品、ICT応用製品などの「競争力のある製品と独自性のあるシステム」を提供することで、成長基盤を確かなものにすべく取り組んでいます。

例えば、変電・配電製品では、インドの変圧器メーカーに出資し技術面で提携関係を築くことで、インドとインド以西の新興国への市場参入を図り、更なるグローバル展開と事業拡大を推進しています。

また、「電力用酸化亜鉛形ギャップレス避雷器（MOSA）」が、米国電子電気学会（IEEE）から『マイルストーン』の認定を受けました。重電機単体としての受賞は国内初となります。詳細につきましては、本号の「MEIDEN TOPICS」でご紹介しておりますので、ご一読ください。

発電製品では、水車メーカーへの出資比率を引き上げ、技術開発を中心に連携を強化し、製品開発を共同で行い、小水力発電システムの市場参入を強化しています。

以上、平成26年におけるトピックスと成果の一端をご紹介申し上げます。今後も当社はおお客様の視点に立った製品の提供を目指して、更なる技術の研さんに努める所存です。皆様方の引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。